

一〇二二年一月一九日

剪定の済みたる小路浅間見ゆ	愛正	くれないのおちよば口見せ梅ふふむ	むべ
春寒や頬さす風の尖りをり	わかば	手習ひの窓の下なる猫の恋	よし子
鶯の声の過ぎりし切通し	素秀	ショベルカー雪解河原に動き出す	こすもす
小流れの光に遊ぶ春の鳥	むべ		
せせらぎの奏でそめたり露の薹	素秀		
白寿なる友健やかや梅の句座	こすもす		
木喰仮の虫食ひの面あたたかし	うつぎ		
淡雪の竹林駆くる人力車	凡士		
焼網に身を捩りあふ霰餅	愛正		
神木の千手を翳す芽吹きかな	うつぎ		
よく空いて春日の席を置く電車	よう子		
盆梅に括るうぐひす飛ぶ構へ	なつき		

毎週句会秀句・みのる選・一〇二二年一月二〇日